

アサリ稚貝移殖放流マニュアル

伊勢湾のアサリの漁獲量は、昭和57年の約1万5千トンピークに減少し始め、平成29年には約300トンまで激減し、それ以降も不漁が続いています。

アサリの減少要因

1. 貧酸素水塊の大規模化
2. 台風や集中豪雨に伴う淡水化、波浪によるへい死
3. 親貝(母貝)資源・浮遊幼生の減少
4. 海の貧栄養化による餌の不足

どうする

伊勢湾アサリ復活プロジェクト

台風などの出水による稚貝の大量死を未然に防止するため、成育に適した干潟などに移殖する仕組みを構築・実践し、伊勢湾のアサリ資源の回復・増大を図ります。

アサリ稚貝の移殖方法

1. アサリ稚貝の発生場所

- ・稚貝は河口域や潮間帯の主に粒径1~4mm程度の砂や砂れきに着底します。

2. アサリ稚貝の適正な採取・放流時期、サイズ

- ・稚貝の移殖放流は台風、集中豪雨の前の5月~7月に行いましょう。
- ・稚貝の殻長が10mmに到達してから移殖放流しましょう。

3. アサリ稚貝の発生量と稚貝の採取量

- ・稚貝の大きさと資源量は毎年変動するため、稚貝調査は定期的に行いましょう。
- ・作業員(10人/日)が、アサリ稚貝(100kg/日)を2か月間(10日/月)採取すれば、20トンの稚貝を移殖できます。

4. アサリ稚貝・成貝の資源量調査

- ・採取したアサリの個数、殻長、重量などを測定しましょう。
- ・アサリ稚貝の資源量推定方法

例) 32cm×32cm(約0.1m²)の枠内に400個のアサリ稚貝が確認されれば、約4,000個/m²の密度で稚貝が生息していると推定されます。アサリの平均重量が0.25g/個で、対象海域の面積が10ha(ヘクタール)の場合、4,000個×10万m²×0.25÷百万≒100トンの稚貝が生息していると推定されます。

5. アサリ稚貝の放流適地

- ・稚貝の放流適地は最干潮時の水面(D.L.)+1m~-3m水深の砂れき質、砂質、砂泥質が混在する底質です。

6. アサリ稚貝の放流密度

- ・放流後の稚貝の減少も考慮して、殻長約10mm以上の稚貝を2,000~5,000個体/m²程度(500~1,250g/m²程度)の密度で放流すると良いでしょう。

7. ジョレンとアサリ稚貝吸引装置による稚貝の移殖放流

<ジョレン>

- 【メリット】初期投資が安く、簡単。【デメリット】人的(体力、人数)、時間的(潮汐、浅い水深)な制約が大きい。

<アサリ稚貝吸引装置>

- 【メリット】ジョレンより作業効率が良く、時間的な制約が少ない。【デメリット】初期投資が高く、作業にコツが必要。

8. アサリ稚貝の放流効果

- ・稚貝(平均殻長14.2mm)6.4トンを放流した場合、約1年後に20トン(殻長30mm以上)の漁獲成果が確認されています。

9. アサリ稚貝の移殖放流効果の向上・漁場管理手法

- ・寄生虫などでアサリが死亡することがありますので、病虫害が発生していない海域から稚貝を採取してください。
- ・粒径5~13mm程度の碎石で覆砂した後に稚貝を放流すると放流効果が高まります。
- ・稚貝の移殖放流場所は禁漁区に設定するなどして稚貝を保護しましょう。
- ・クロダイ、ツメタガイ、鳥類などの食害防止対策は、稚貝移殖後のかぶせ網などが効果的です。

10. アサリ稚貝の移殖放流に関するルールと三重県アサリ協議会

- ・アサリ資源の増殖を目的に、殻長2cm以下のアサリ稚貝を採捕して移殖放流する場合は、稚貝の採捕者、団体などが特別採捕許可を取得する必要があります。
- ・共同漁業権を超えたアサリ稚貝の移殖放流を行う場合は、三重県アサリ協議会(事務局:三重県漁業協同組合連合会TEL059-228-1205)にご相談ください。



ジョレンによるアサリ稚貝採取



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812

(2019年3月発行)